風土記の丘の花だより340

今、そしてこれから見られる植物（2026年10月3日）

秋の彼岸もすぎ、朝夕はさすがに涼しくなりました。野山には秋の花がたくさん咲いています。今回も４種類の花を紹介しますが、その前に訂正とお詫びです。９月６日発行の３３７号で紹介したチョウジタデの写真はヒレタゴボウのものでした。不勉強な私の間違いです。それで、風土記の丘の近くの田んぼでチョウジタデを撮影してきましたので紹介します。



この花がチョウジタデです。ヒレタゴボウと同じ黄色で、作りもよく似ていますが、１センチにも満たず、ヒレタゴボウより小さな花です。どちらも田んぼなどの水辺によく生えます。かつては藤棚の近くの新池にも生えていましたが、最近は見ることができなくなりました。大池のヒレタゴボウは花だよりで紹介したあとすぐに増水した池の水に沈んでしまいましたが、水が少し引けばまた姿をあらわし、黄色い花を見ることができます。間違って、本当に申し訳ございませんでした。



変わった形の花ですね。ナンバンギセルの花です。

１０年ほど前までは風土記の丘に生えていたという記録や写真がありますが、私がここに勤めさせていただくようになってからは見たたことがありませんでした。それでもう何年も前から、ある来園者の方から種子をいただき、毎年まいていました。それで昨年やっと花を見ることができました。そして今年もたくさん咲いてくれました。これからも毎年花を咲かせてくれるように祈っています。場所はヒミツです。ごめんなさい。



旧谷山家住宅の庭にある水鉢で、コナギの花が咲いています。万葉植物園にも植えていましたが、再三イノシシに掘り返されたこともあり、どうやら絶えたようです。また、今年は古代米の田んぼに水を張りませんでしたから、そこでも見ることができませんでした。米農家の方にとっては邪魔な雑草でしょうが、きれいな青色の花は観賞に値します。まだ今は咲き始めです。たくさんのつぼみがついていますので、これからが楽しみです。見に行くのは朝よりも昼下がりの方がいいですよ。



ノカンゾウの花があちらこちらで咲いています。暑い頃咲いていたのは八重咲きのヤブカンゾウです。これは一重咲きです。この仲間の花は、昔「わすれぐさ」と呼ばれ、いやなことや、恋しい思いを断ち切りたい場合に植えたそうです。風土記の丘では、そんなわすれぐさの仲間で一番遅く咲く花です。

松下